

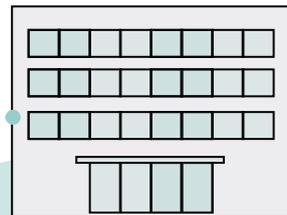
第2回テーマ

理想の庁舎像とは

昨年11月の第1回に引き続き、市民ワークショップを開催いたしました。今回は、第1回の検討内容を参加者全員で共有した後、理想の庁舎像について検討を行いました。

皆様の三島のまちに対する思いと、新庁舎に対するご意見をお伺いしましたので、その内容と様子をお伝えします。

理想の庁舎像



当日の流れ

■オリエンテーション 13:30

- ・本日の流れの説明
- ・明治大学大学院の学生提案の概要説明
- ・まるとマルシェの事例紹介



オリエンテーション



学生提案の成果を見学

■グループワーク 13:50

- ・第1回ワークショップの振り返り
- ・各班を回りながら検討内容の共有
- 休憩 (10分) -
- ・理想の庁舎像について検討
- ・グループの意見まとめ



グループワーク



全体発表

■共有 15:00

- ・全体発表
- ・今日のまとめ

終了 15:30

全体発表でいただいた意見(まとめ)

A グループ

- ・人口減少やオンライン化への対応で余ったスペースを「ゆとりスペース」として活用する方法を考えたい。
- ・機能の切り替えなど、フレキシブルな場所活用によって、文化、子ども、防災のためのスペース創出を目指したい。

B グループ

- ・求められるサービス(例：まちのコンシェルジュ機能)によって必要な庁舎のかたちや規模を考えたい。
- ・人の集まるまち、憩えるまち、住みやすいまち、どれも大切なため、それらが混在するまちづくりを目指したい。

C グループ

- ・DX化を見据えた市役所のサービスを考えたい。フレキシブルな場所活用を行い、防災機能の配置や三島の情報発信を行いたい。
- ・わざわざ行きたくなる庁舎としたい。例えば地域と連携した食堂を設けるなど、付加価値をもたせることを目指したい。

D グループ

- ・人口減少、DX化によって、機能や使い方の変換が必要。
- ・DX化と、人と人の触れ合いを両立させたい。
- ・地域のコーディネーターをはじめとした繋がりがづくりや、相談ができるような、付加価値のある集まる場所を目指したい。

E グループ

- ・DX化が進む中で、庁舎に残るものについて考えたい。
- ・手続きではなく相談事をする場所、世代間の交流ができる場所、三島のまちの魅力を発信する場所など、人と人の交流を目的とした機能や場所づくりを目指したい。